

堺中の制服



帽子には一本線。その中央にはもちろん堺中の校章。上着のボタンにも。

学年ごとの襟章が決定したのは大正元年。梅の花びらの数が学年が進むにつれ、増えていくもの（下の図で左から1年、2年・・・）。襟章は学校から貸与されていた。



生地は「小倉」が用いられた。「小倉織」は重いが丈夫な綿織物で、かつては袴（はかま）や帯に使われ、明治以降は学生服によく使われた。

大正7年の新服装規定では靴は「短靴（黒色ニシテ紐付）又ハ兵隊靴」となっている。



制帽をかぶるのは当然だ！

2種類の襟の形が確認できる昭和6年の卒業アルバム。翌昭和7年の服装改正で、右側のような折襟に定められる。



はじめは紺色だった

堺中時代の制服といえばいわゆる黒い学生服で、別に変化もなかったのだろうと思いがちだが、実際はそうでもなかった。

「堺中学校」の名称になる前、「第二中学校」（1895〜1901年）時代の「細則」（大阪府第二中学校規則を補足するもの）には
一 上衣 達磨型前鈕掛ケ内カクシトス
二 袴 普通のツボントス
但上着、袴トモ夏ハ白色冬ハ紺色地質ハ小倉織トス*
となっていた。

大正7年4月には新服装規定が実施されたが、ここでも「但上着、袴トモ夏ハ白色冬ハ紺色地質ハ小倉織トス*」*となっていて変化はない。

つまり、明治と大正初期、母校の学生服は紺色、夏は上下とも白だった。
ところが、大正14年の服装改訂では夏服は白色から霜降*（グレー）に。

昭和5年堺中学校「父兄保証人心得」（上村資料）の中の生徒服装規定摘要によると

「制服 冬ハ表黒色小倉織裏ハ白色ネル片綾夏ハ霜降綾小倉*」
となっており、冬の制服は紺色から黒に変わっている（何年にも変わらなかったのは不明）。

その後、昭和7年の「府下男子中等学校生徒、服装統一に基づく制服改正」で「上衣は折襟、夏服は鶯色霜降、カーキ色巻脚絆*」に。この前後の卒業アルバムを見ると同期で襟の形が違っていたりしており、必ずしも統一されていたというが、昭和10年代では全員が折襟のようである。（*資料はいずれも「三丘百年」から引用）

国民服

国民服には甲号・乙号があり、旧制中学校の生徒が着用したのは乙号。上衣、ズボン、帽子、ゲートル共に茶褐色。上衣の襟は低襟、袖には肘当てが付き、ズボンの膝の部分は裏から膝あてがつけられていた。ゲートルは細長い布を巻く「巻脚絆」。



ゲートル（脚絆）は旧制中学生にとって重要なアイテム。野外演習や登山の時は制服のズボンの上につけた。ボタンで止めるタイプと巻くタイプがあった。明治の頃は服装検査が厳しく、「ゲートルのボタンが1つ外れていても大層叱られた」そうだ。
上の写真は昭和8年金剛登山の際の堺中学生たち。夏服で、足にはゲートルを装着。

新制三国丘高校発足、女子制服が誕生

昭和28年の卒業アルバムから。制服はできたが、まだ統一されていない。



制帽？
ヘアスタイルが乱れるので、ちよっと…

校章と学年章

詰襟。襟には取り外し式の「カラー」。



現在の校章。昭和23年にできた。



赤・黄・青の学年章ができたのは昭和33年。当初は「国」を略して「口」にしていたが昭和60年に「国」に。

制帽はいつ消滅したか

60年代から制帽をかぶる生徒は激減していたが92年までは生徒手帳に記載された制服の略図に制帽と制帽の図があった。これが93年からはなくなっている。合格者説明会で配付される小冊子でも93年には制帽に関する記載がなくなっている。ただし、「三丘百年」によると2004年頃にはまだ購買部で販売されていたそうである。



ブラウスは前身頃左右に3本ずつピンタックがあり、襟は台襟のないフラットカラー。丈は短めでオーバーブラウスとして着用。黒のボウタイを結ぶ。

ブレザーのポケットは貼り付け式。前身頃の裾は丸みをつけていない。

ボックスプリーツは前に2本だけ。後ろにはない。

平成のリニューアル

2011年（平成23年）、女子の制服が一一新された。新しい制服のスカートは18本のひだ（車ひだ）の入ったプリーツスカート。ブラウスの裾は絞らず、やや長くなった。オーバーブラウスにして着ることもできるが、スカートに入れて着る生徒が多い。従来のボウタイに加えてリボンも選べるようになった。ブレザーの丈は少し長くなり、裾は丸くカット。ポケットはフラップ付き。

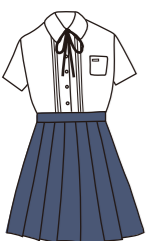
男子の学生服については全国共通の「標準服」で特に指定もなく、中学校で着ていた制服をボタンだけ付け替えて着ることもできる。

スラックスが追加された令和

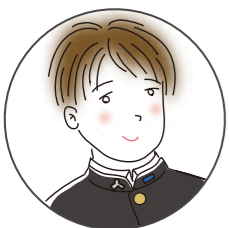
世は多様性の時代。いよいよ令和4年（2022年）度入学生から女子制服に「スラックス」がオプシヨンとして加わった。昨年から在校生も希望すれば購入できるようになっていったが、正式には今年度からの導入。

正式にはボウタイ。でもリボンのほうが人気。

ブラウスには昭和の制服と同じく左右に3本ずつピンタック（位置は若干異なる）。



夏服。ブラウスは「スカートにイン」が多数派。



男子の制服はあまり変わっていないから、と省略されちゃったけど、微妙に進化してるよ！今は取り外しができるカラーは使わず、白線を埋め込んだラウンドカラーが主流だしね。

ひだが少ないのは生地の節約のためだった？！

戦時体制強化、国民服に

さらに戦時体制が強まり、昭和13年には制服・靴の新調禁止、そして昭和15年に「国民服令」が制定され、昭和17年以降はこれが全国の生徒・学生の共通通学服としても指定されるに至った。ただし、新調する際は国民服ということであり、一斉に国民服になったわけではなかった。旧制中学時代の50余年の歴史は国家主義的傾向が次第に強まっていく過程でもあった。制服の度重なる変更もそれによるところが多かったと思われる。

1948年（昭和23年）、府立堺高等女学校、堺市立高等女学校と堺中学校の間で「三校交流」が行われ、母校は男女共学の新制高校「三丘丘高校」となり、それまでなかった女子制服が新たに制定された。堀本アイ、津村千津子、村井シゲコの3人の家庭科教諭がデザインを考案したが、スカートは大阪府が配給した基本服をそのまま使った。スカートの後ろにひだがないのは物資欠乏の時代に合わせたものだという。

新しい制服を決めたものの強制はされなかったため、初期は堺高等女学校や堺市立高等女学校の制服をそのまま着用している生徒が多く、新制服で統一されるには数年かかった。男子制服は形は旧制中学校のものと同じ（襟は詰襟）だが、ボタンには新しい校章、帽子は「三丘丘」にちなんで3本線となった。

女子の制服はこの後、63年間変化せず、男女とも「安定の時代」となる。おかげで三丘丘といえば「後ろにひだのないスカート」がトレードマークになり、時に「おばさんくさい」と言われることも。ただし、同じ制服でも時代によって着こなしは変わった（次ページ参照）。

スカートには18本のひだ

卒業アルバムに見る制服の着こなしいろいろ

前の2ページは制服の正史というべきもの。だが、制服にはもう1つの歴史がある。制限の中でも流行を取り入れたい。カッコよくありたい。おしゃれしたい！みんなそう思ったあの頃。歴代の卒業アルバムを繰ってみよう。
 (画像を一部加工しています)



1953年 ● 新制高校発足からまだ5年。男子はほぼ全員が制帽をかぶっていた。マフラーや手袋がおしゃれだ。



1963年
 60年代、女子生徒の足元は白の三つ折りソックスが定番。男子は革靴（または合成皮革）が多かった。



80年代、スカート丈は長めになり、ひざ下～ふくらはぎあたり。ソックス、スニーカーのバリエーションが華やか。

1980年

1973年
 ソックスをはかず、ストッキングのみ、ローヒールのパンプスで通学する女子も珍しくなかった70年代。スカートの丈は短め。冬はブレザーの下にタートルネックのセーターを着る（ボウタイ省略!）のも流行した。



1994年

再びスカートが短くなった90年代、男子にも変化が顕著。ズボンの裾はキュッと細くなっている。上着の丈を短くしている生徒も。



1997年

カッターシャツをズボンの上に出して着ている男子が、この頃のアルバムには登場。足元は上履き(平成校舎からは二足制)



1998年

制服のブラウスをスカートに入れて着ている女子が。まだ昭和からの、オーバーブラウスだった時代。もしや未来を先取り？



自由な校風が特徴の母校。同じ制服でも時代によってこんなに違う。ただ、先生方にお聞きしたところ、外部の人や同窓生が見ても恥ずかしくないように、きちんとするように指導している、とのことだ。今年はリラックス姿の女子生徒もすでに見かけるようになった母校。次はどんな着こなしを見せてくれるのだろう？

左の写真は2019年のアルバムから。